

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	29人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成27年5月26日(火) 13:30 ~ 15:00				
主テーマ	<ol style="list-style-type: none"> これまでの部会経過と長期目標、短期目標の確認 当事者、家族の意見を聞くため部会が出向くことについて 難病および上伊那圏域小児長期入院時等支援連絡会について 保護者の方から(意見交換) 					
主な意見など	<ol style="list-style-type: none"> について(部会長、事務局より) <ul style="list-style-type: none"> 主に、部会に初めて参加される方向けに、本部会のこれまでの経過について説明を行い、部会の長期・短期目標について確認した。⇒質疑等なく、今年度も引き続き目標に沿って活動することが確認された。 について(伊那養護学校担当教諭、事務局より) <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度より、伊那養護学校つくしグループ進路福祉懇談会に部会として参加させていただいている。 養護学校側の願いは、部会の長期・短期目標とも重なる部分であり、学校や保護者の方々とも連携しながら、圏域の課題解決に向け、ともに考える機会としてほしい旨、説明があった。 ⇒当事者の方々の貴重なご意見をお聞きできる場であり、今年度も引き続き参加することとなった。 について <ol style="list-style-type: none"> 難病について(意見交換・情報交換) <ul style="list-style-type: none"> 対象疾病も拡大される方向であり、部会としても今後の動きを注視していくことを確認した。 上伊那圏域小児長期入院時等支援連絡会について(事務局より) <ul style="list-style-type: none"> 伊那保健福祉事務所主催事業であり、議題も本部会で扱う内容との関連性が高く、2年くらい前から正副部会長や事務局が参加している。今年度も互いに情報共有していく。 について(参加者全員) <ul style="list-style-type: none"> ○現状の困り感や社会資源の充足状況等について、幅広く意見交換を行った。主な内容は、次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備を行う予定があれば、ぜひ重心児・者も利用できる施設改修を検討してほしい(保護者) <ul style="list-style-type: none"> ⇒現状、予定はないが、個々に依頼があれば受け入れ検討はしている。医療的ケアが必要な場合、夜間対応できる看護師確保が難点。お気持ちは分かるので可能な限り対応したい(大萱の里) ショートステイを使いたくても、夜間看護師が常駐していない、医療機関も満床で土日利用はできない等、ハードルが高い。医療的ケアが必要な子を見てもらえる場所を増やしてほしい(保護者) <ul style="list-style-type: none"> ⇒病棟を地域包括ケア病棟に整備する準備を進めているが、空床型ショートステイへの影響は現時点ではよく分からない。土日利用は、医師の勤務体制もある。ニーズは理解している(昭和伊南病院) ⇒地域包括ケア病棟にショートステイをお願いしていくのも新しい切り口となりうる(副部会長) ⇒空床型だが、予約や個別相談にも応じている。できるだけ柔軟に対応するよう努力したい(辰野病院) 在宅ケアの重心者向け入浴サービスの拡充をお願いしたい。家族介助では入浴が難しい方もいる。受け入れてくださる施設もあるが、入浴設備は整備されているのに活用されていない所もある(保護者) 共通課題として人材、特に看護師不足を感じる。思いや設備はあっても人材確保が難しい。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒8市町村が連携して予算確保し、看護師派遣システムを作る等できるとよいのではないかと。 ⇒訪問看護ステーションを障がい者サービスに位置づけることが必要。ハコ物より「しくみとお金」が大事。 ⇒看護師がタイムケアで入ることは可。人材不足解消が重要。他に医師の指示書の問題もある。 リハビリも重要。学校にリハビリ担当者が訪問してくださると助かる(伊那養護学校教諭) <ul style="list-style-type: none"> ⇒つくしグループ懇談会には市町村担当者も出席するので、話題にしてはどうか(事務局) ⇒一般的なリハビリとその子に必要なリハビリとを分けて考える必要もあるのではないかと(保護者) ⇒総合支援法に訪問リハビリはないが、訪問看護でも対応可。他、療育事業等うまく活用できるとよい。 長期目標の具体化に向けて(伊那養護学校教諭) <ul style="list-style-type: none"> ⇒平成26年度、アドバイザーを通じて県自立支援協議会に課題提起したが、具体的にどのような施設が必要なのか、圏域としても統一見解が出ておらず今後詰めていく必要がある。県への課題提起は11月。次回までに具体的な要望等があれば、各自持ち寄るか、きりりあへFAXしてほしい(部会長・事務局) ⇒新規建設か、既存施設改修で療養型部門を作るか等、限りなく実現できる方向で考えたい(保護者) 					
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 部会の経過と今年度の活動方針を確認し、現状の困り感や課題を率直に出し合い、意見交換できた。 					
次回	<ul style="list-style-type: none"> 第2回部会は、7月3日(金) 10:30～ 伊那養護学校にて開催します。大勢のご参加をお待ちしています。 					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	56人	会場	長野県伊那養護学校 2階 会議室
	日時	平成27年7月3日(金) 10:30 ~ 12:00				
主テーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度の取り組みの振り返りと部会の長期目標・短期目標について 2 重心の方の地域医療の拠点となるような施設の建設、療養型施設の設立について 3 医療的ケアが必要な方が利用できるショートステイ等のサービスの充実について 4 その他 					
主な意見など	<p>※今回の部会は、平成27年度伊那養護学校つくし進路福祉懇談会へ部会として出向く形で開催されました。</p> <p>1 について(伊那養護学校担当教諭より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護学校では、つくしグループ保護者アンケートをもとに、(1) 身体に特化した生活の場づくり、(2) センターの医療施設を南信に、(3) ショートステイの充実、(4) 日常の困り感に寄り添うという4つの願いをまとめ、部会内協議をお願いしてきた。結果、これらの願いは、部会の長期・短期目標とも軌を一にする共通課題であることが確認できた。 ・本懇談会では、部会の長期・短期目標に沿って、特に課題の(2)・(3)を中心にご意見をいただきたい。 <p>2 について(参加者全員)</p> <p>○部会の長期目標に関わって、センター的医療施設、療養型施設の設置について意見交換が行われた。</p> <p>(1) 提案:作業部会を設け、具体的、詳細な要望内容を集中的に議論してはいかか(伊那養護学校)</p> <p>(2) 主な意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どれくらい利用ニーズが見込めるのか。利用希望も含め作業部会で検討してほしい(斉藤診療所・ティユール) ・具体的ニーズと困り感を保護者が声を上げて示すことが大切。作業部会にも積極的に参加してほしい(保護者) ・自立支援協議会ですべきことは何か。立ち位置や方向性を明確にして進めてほしい(保護者) ・新規建設は難しい中、1病院を重心者向け医療施設に特化するよう働きかける方法もある(保護者) ・療養型部門設置等の要望は、働きかける先も重要。誰が理事者であるかにもよる(昭和伊南病院) <p>(3) 正副部会長・事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会回数は限られ、幅広い要望、ニーズ集約と丁寧な検討には時間確保が難しいのが現状。いただいたご意見を踏まえ、作業部会で具体的、効率的な詳細検討を行い、一步でも前進する方向で取り組みたいが、いかかか。→作業部会を設置し、長期目標具現化に向けて集中的な議論を行うことが了承された。 <p>3 について(参加者全員)</p> <p>○部会の短期目標の中のショートステイの活用に特化した形で意見交換が行われた。</p> <p>(1) 討議の柱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な方が事業所や病院でショートステイを受けられるためには、何が必要か。 <p>(2) 主な意見交換</p> <p>ア つくしグループ保護者より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中より事業所や病院と関係を作り、資源も積極的に活用することで重心児のニーズを理解してもらいたい。 ・ショートステイを利用したいが、子の体調が不安定だと受入れてもらえないことがある。両親揃っての体調不良や老親の介護、仕事との両立が難しくなったとき、看護師がいる所で数日でも見てもらえると大変助かる。 ・前もってお願いすれば「預かるよ」と言ってくださるが、急用時、いざ空気がなかったら…と不安になる。 <p>イ 圏域医療機関等のショートステイ受け入れ状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者と同室で感染症罹患の不安はある。主治医との連携次第で行える医療に制限がある。複数のショートステイ先との関係作りも重要と思う(斉藤診療所) ・地域包括ケア病棟にショートステイ機能を残しているのは、本部会の要望を忘れないためである。空床型で十分対応できない面もあるが、可能な限り対応したい(昭和伊南病院) ・急性期病院でショートステイは現状難しい。小児科医も要望は承知している。救急搬送時、全く情報がないと適切な処置がとりづらい。日頃からの関係作りをお願いしたい(伊那中央病院) ・空床型だが、病院側でショートステイのニーズがうまく拾えておらず連携を密にしたい。常勤小児科医不在がネック。主治医の紹介状の内容次第ではショートステイ対応困難な場合もある(辰野病院) ・空床型。小児科医はいるが、医師不足は圏域全体の課題と感じる。重心児は、受入れ前にケアの確認が必要であり、事前の関係作りは必須と感じている(上伊那生協病院) ・上伊那からの利用も多いが、年間通じてショートステイはほぼ埋まっている状態。重心専門施設として、できる限りの協力は今後も続けていきたい(信濃医療福祉センター) <p>4 について</p> <p>(1) 中信社会福祉協会が運営する重心者のグループホーム「みすぎの森」の見学会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸切バスの定員に若干余裕があるので、参加をご希望の方はきらりあへご連絡ください(パンセの会) <p>(2) 伊那養護学校看護師募集のお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員2人のところ、現在欠員1人。お勤めいただける方がいれば、お知らせください(伊那養護学校) 					
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・つくしグループ進路福祉懇談会に部会として出向き、当事者の声をもとに、圏域課題を改めて考えることができた。 ・部会の長期目標にかかる作業部会の立ち上げを皆で確認することができた。 				
次回	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細については、後日お知らせする。 					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	29人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 27 年 11 月 2 日 (月) 13:30 ~ 15:00				
主 テ ー マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 伊那養護学校つくしグループ懇談会のまとめ 2 ワーキンググループの活動報告と今後に向けて 3 小児在宅医療支援について 					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(伊那養護学校担当教諭より)</p> <p>○つくしグループ懇談会の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重心児保護者の思いに寄り添いながら、部会の長期・短期目標を踏まえ、圏域の現状と課題を検討した。 →ワーキンググループを立ち上げ、目標具現化に向けた動きがスタートし、現在に至っている。 (懇談会の内容詳細については、平成27年度第2回重心・要医療的ケア部会議事録を参照のこと) <p>2 について</p> <p>(1) ワーキンググループの活動経過報告(部会長より)</p> <p>○ワーキンググループ立ち上げの経緯とメンバー紹介及び活動報告があった。</p> <p>ア 第1回ワーキンググループ(平成27年9月10日開催)</p> <p>(ア)長期目標の具体化及び短期目標の充実についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な検討事項 療養型施設をどのように作るか(新設か、既存施設を活用し具体化していくか) 地域包括ケアシステムについて →制度の学習が必要。 医師不足、看護師不足への対応 →国や県への要望が必要。 <p>(イ)今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人保健施設へのアプローチ →老健施設を訪問し、重心児者の受け入れについて、要望を伝える。 ・地域包括ケアシステム →制度を知る(講演会:H27/9/24実施)。要望書を作成し、行政に伝える。 ・受入先関係機関の開拓・要請(短期目標具体化のために) →要望書を作成し、働きかける。 <p>イ 第2回ワーキンググループ(平成27年9月24日開 ※相談支援専門員連絡会との合同開催)</p> <p>(ア) 講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹重俊文氏による地域包括ケアシステムについての講演 <p>(イ) グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員とのグループワーク <p>ウ 第3回ワーキンググループ(平成27年10月21日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期目標の変更についての提案あり <p>(2) 活動経過報告を受けての意見交換(参加者全員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な検討事項 地域生活支援拠点事業について 医療的ケアを行える事業所拡大、医療機関でのショートステイの充実について 部会長期目標の見直しについて <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループで示された方向性については、引き続き作業部会で精査・検討しながら、進めていく。 ・部会の長期目標については、次のように修正することが、決まった。 「重心・医療的ケアが必要な障がい児・者が安心して利用できる拠点を圏域総合病院等に設置する」 <p>3 について(事務局より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県保健福祉事務所所管事業。平成26年度は重心児者の実態調査等を行ってきている。 ・重心児者の老人保健施設利用の検討等、本部会と重なる動きをしており、連携しながら活動していきたい。 ・老健施設については、今後伊那養護学校とも連携し、見学・体験等を進める中で、利用可能性を探りたい。 					
ま と め	<p>つくしグループ懇談会を踏まえ、立ち上げたワーキンググループの活動経過報告を行い、情報を共有した。長期目標を修正した。関係機関への要望書作成、老健施設の活用等作業部会で引き続き検討していく。</p>					
次 回	<p>詳細については、後日お知らせする。</p>					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	20人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成28年2月9日(火) 15:30 ~ 16:30				
主 題 マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 ワーキンググループの活動報告 2 要望書(案)の検討 3 老人保健施設へのアプローチについての経過報告 4 その他(報告・情報提供等) 					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> 1 について(事務局より) <ul style="list-style-type: none"> ○これまでのワーキンググループでの話し合いの概要及び今後の活動予定について、報告があった。 (1) 第1回～第3回(詳細は、第3回重心・要医療的ケア部会議事録を参照) (2) 第4回(平成27年11月20日開催) <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムへのアプローチや関係機関の開拓(短期目標の充実)に向けた要望書の検討 ・老人保健施設へのアプローチについての報告 ・平成27年12月12日開催の重症心身障がい児者シンポジウムのお知らせ (3) 第5回(平成27年12月21日開催)&第6回(平成28年1月27日開催) <ul style="list-style-type: none"> ・要望書の検討と原案作成 (4) 第7回(平成28年3月3日開催予定) <ul style="list-style-type: none"> ・要望書の提出先の具体化について検討予定 2 について(参加者全員) <ul style="list-style-type: none"> ○ワーキンググループで検討してきた要望書原案が示され、内容についての確認、検討を行った。 ・主な検討事項 (1) 医療的ケアが必要な方が生活介護事業を利用する場合の報酬単価等について (2) タイムケア事業(県独自事業)の充実及び他サービスとの併用等、弾力的運用について (3) 要望書を提出する関係機関の範囲や要望のしかた等について <ul style="list-style-type: none"> →(1)・(2)については、圏域単独での解決が難しい課題であるため、要望書とは別に市町村とも連携しながら、県自立支援協議会へ課題を上げていく方向で検討したい。 →(3)については、引き続きワーキンググループで検討を重ね、次年度につなげたい。 3 について(事務局より) <ul style="list-style-type: none"> ○前回部会での報告以降の動きについて、概要説明があった。 ・平成27年12月22日、直近の小児在宅医療連絡会が開催され、圏域内各老人保健施設から参加があった。 ・老健施設における重心障がい児者の受入れについて、話し合いが行われた。 ・1家族より平成28年4月から利用等に向け動いていきたい意向が示された。 →今後の経過をワーキンググループでも引き続き注視しつつ、進展があれば部会でも報告していきたい。 4 について(事務局より) <ol style="list-style-type: none"> (1)「医療的ケアが必要な重症心身障がい児(者)の地域生活にかかる調査結果」について(情報提供) <ul style="list-style-type: none"> ・標記調査結果が県ホームページに掲載されている。 (2) 県コンダクターチームについて <ul style="list-style-type: none"> ・重心障がい児が、県立子ども病院から地域に戻る際の各圏域の支援体制(コンダクターチーム)整備について、県自立支援協議会療育部会内のワーキンググループで検討を始めている。 ・これを受け、県より圏域で重心障がい児者支援に中心的に関わっている方々の名簿作成依頼があった。 ・名簿原案を作成したので、加除修正等、確認をお願いしたい。 →質疑等なく原案どおり、県へ提出する。 (3) 県自立支援協議会への報告事項について <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年11月に辰野アドバイザーを通し、県自立支援協議会へ本部会から次の2事項を要望・報告した。 ア 大人用介護ベッドの高速道路SA・PAへの設置要望(県内大型商業施設等は県の条例に盛り込み済) イ 在宅重症心身障がい児者への対応の充実(ワーキンググループを設置して検討している旨、報告した) (4) 三才山病院について(情報提供) <ul style="list-style-type: none"> ・①短期入所、②リハビリ、③柔軟な受入れが可能で、療養介護入所、短期入所ともに受入れ可とのこと。 					
ま と め	<p>ワーキンググループの活動経過報告を行い、作成した要望書原案を検討した。次年度に向け、要望方法等、具体的な動きにつながるよう細部を詰めていく。合わせて老健施設へのアプローチ等の情報共有を行った。</p>					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は4回の部会を開催してきました。大勢の皆さんのご参加、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き積極的なご参加をよろしくお願いいたします。 					

